



2020年9月29日
(2020年9月29日18時点版)

ニュースリリース

ジェットスター・ジャパン株式会社

ジェットスター・ジャパン、2020年度決算

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は本日、2020年6月期決算(2019年7月1日~2020年6月30日)を取りまとめました。営業収入は478億8,300万円(前年同期比20.9%減)、営業損失は66億7,500万円(前期営業利益10億6,400万円)、当期純損失は77億5,700万円(前期当期純利益9億1,400万円)となりました。会計年度前半の業績は好調だったものの、下半期は新型コロナウイルスの感染拡大による航空需要の急激な減少に伴い、大きな影響を受けました。

総搭乗者数(有償ベース)は昨年度から121万人減少し、431万人(前年同期比21.8%減)となりましたが、4月に累積搭乗者が3,500万人を超えました。定時運航率は85%(前年は78%)、平均搭乗率は82%(前年は87%)となり新型コロナウイルスの影響があったものの堅調に推移しました。

昨年10月には指定本邦航空運送事業者の指定を、12月には航空機整備検査認定を受けました。

ジェットスター・ジャパン株式会社の代表取締役社長 片岡優は次のように述べています。
「昨年度下半期は新型コロナウイルスの影響が拡大する状況下にありましたが、就航からの累積搭乗者数3,500万人を達成することができました。ご利用いただきましたお客様に感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響を乗り越えるため、ジェットスター・ジャパンでは需要の大幅な落ち込みに鑑み、安全運航を最優先しながらコスト削減と運航の最適化にいち早く動きました。厳しい経営環境下でも柔軟な対応を続け、需要が回復した時には元通り事業に注力できるよう取り組みます。

また、お客様に安全にかつ安心してご利用いただけるよう、感染予防プログラム「[Fly Well\(フライウエル\)](#)」を導入し、運賃や料金の払い戻しが可能なオプション「[FareCredit\(フェアクレジット\)](#)」を販売しております。LCCとして、低運賃のご旅行でご家族やご友人との再会を可能にし、旅行業界を盛り上げるべく、今後もオンラインチェックインの利用推進や空港での自動手荷物預け機の導入などにより、空港や機内での感染予防策を徹底し、安全にご利用できる環境を整えてまいります」



■2020年6月期 決算概要

(百万円)

	2020年6月期	2019年6月期	増減
営業収入	47,883	60,523	▲12,640
営業利益(損失)	▲6,675	1,064	▲7,739
経常利益(損失)	▲7,722	945	▲8,667
当期純利益(損失)	▲7,757	914	▲8,671

■2020年6月期 重要な経営指標

	2020年6月期	2019年6月期	増減	前年同期比
有効座席キロ (百万キロ)	5,094	6,477	▲1,383	▲21.4%
有償旅客キロ (百万キロ)	4,200	5,700	▲1,500	▲26.3%
有償旅客数 (万人)	431	552	▲121	▲21.8%
平均搭乗率	82%	87%	▲5pt	▲5.7%

ジェットスター・ジャパンについて

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内16都市・海外4都市に就航し、国内23路線・国際6路線を25機のエアバスA320型機(180席)で運航しており、就航から3,500万人以上のお客様にご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>